

科目名 Subject	美容福祉演習 Aesthetics and Welfare Practice			教員名	大西 典子	
開講年次	2	開講時期	後期	単位	2単位	
必修／選択	選択	授業形態	演習	時間	30時間	
実践的教育	×					
主な学習効果	美容技術とデザイン力、すなわち美容における実践力			表現力、すなわち芸術における実践力		
	○			－		
科目の概要	福祉美容演習で学んだ、さまざまな人の「美しく齢を重ねたい」「自分らしく生きたい」という生き方の想いに応えるために、美容師が美道5代原則（髪、顔、装い、精神美、健康美）の観点から、全ての人々を対象に、より質の高い豊かな生活をサポートできる美齢の取り組みについて学ぶ。（美容福祉と美齢の意義と目的について理解する） 一人一人の生命の安心安全を尽くすためには本人と本人に関わる家族、福祉専門職者、医療専門職者等との連携による情報の共有が不可欠となる。それぞれとの関わりや連携の進め方について多様性をもって理解する 一人一人の生き方、価値観を尊重し、現在抱えている課題や地域社会の問題にも理解を深め、どのような状況下においても、ホスピタリティの精神で希望に応えられる美容を提供できる環境を整えるスキルを養う。					
授業方法	授業は対面授業で行う。 ただし、状況次第でZOOMによる同時双方向（リアルタイム）のオンライン授業に切り替えることや、密の分散のため受講者を区切り、対面授業とオンライン授業を併用する可能性もある。					
授業の目標	全ての人々が「美しく齢を重ねたい」「自分らしく生きたい」を体験できる社会を目指すために、美容師は一人一人の美容ニーズに対して本人の情報（本人と本人に関わる家族、福祉専門職者、医療専門職者などとの連携によるもの）、形態別美容の技術、美容福祉道具と美容商材、衛生面の管理などの準備を整えて施術に臨む事が求められる。その取り組みについて外部実習を通して理解する。本人の安心安全と喜びを提供するために、観察力や洞察力を深め問題点を発見→分析→決定→実践→振り返りまでのプロセスを養う。美容福祉・美齢の観点から支援や介護が必要とされている人にも、自立した元気な高齢者にも最後まで一人の人間として「美しく豊かに生きる」という生き方をサポートできる美容師になる事を目標とする。					
時間外学習 （予習・復習）	予習 授業に関連する書物や新聞、ニュースなどにも関心を広げ、日々人や社会が抱えている問題点を挙げる。問題解決に向け美齢の観点から関われることは何か具体的に考えをレポートにまとめる。 復習 授業で配布した資料や書物を繰り返し熟読し内容について正しく理解する。いろいろな活動等にも積極的に参加して多くの人との出会いやコミュニケーションにより相手の心に触れる体験をする 毎回 予習30分 復習30分とする					
教科書・教材	教科書		教員作成資料、配布プリント			
	教材		なし			
	使用設備・備品		なし			
	参考文献		山野正義「美齢学」、「生きるほどに美しく」、「ジェロントロジー」			
評価方法	・積極的な参加態度 ・外部実習での観察力、洞察力、問題点を発見→分析→決定→実践→振り返りまでの取り組み ・レポートの内容 を総合して評価 平常点20％ 小課題30％ レポート50％とする					
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
学生へのフィードバックの方法	個別に実地指導を行います。					
履修上の注意	積極的かつ主体的に授業に参加すること。常に問題意識を持つ姿勢で臨み、具体的な自分の意見をもつこと。疑問に思うことや気づきについては、その都度メモを取り、授業内で解決する					
本科目履修と関連する資格	資格名	なし				

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	美道五大原則（髪・顔・装い・精神美・健康美）を基に、美容福祉と美齢の意味と目的について学ぶ	その人らしく美しく豊かに生きる事を実現しサポートするために美容福祉と美齢の関連性を理解できる	予習 美容福祉とは何か理解しておく。復習 人々が抱えている美容に関する問題点を1つ挙げレポートにまとめる
第2回	人生の終末期に向かう人に対して求められる美齢の取り組みについて学ぶ	事例からグリーンケアとラストメイクの施術方法が理解できる。美齢の取り組みの意味を理解できる。	予習 「マズローの欲求5段階説」を理解しておく。復習 美齢による取り組みの意味についてレポートにまとめる
第3回	対象者理解 「百はたち年表の作成」その意味と美容サービスに繋げる活用方法について学ぶ	現在・未来をその人らしく美しく生きるために、その人の過去の生活歴を知ることの意味が理解できる	予習 今日までの生活歴をレポートにまとめる。復習 百はたち年表を作成し美容に繋がる活用方法をレポートにまとめる
第4回	安心・安全に美容サービスを提供するために必要な取り組みについて学ぶ	1. 帳票類の作成 2. 医療職・福祉職・家族・地域社会との連携の仕方の必要性が理解できる	予習 「ジョハリの窓」について理解しておく。復習 美容が社会や人々に及ぼす影響についてレポートにまとめる
第5回	美容講座による健康づくりについて段階的アプローチが対象者にもたらず影響について学ぶ	美容講座→ファッション→外出一体操、一人称から三人称までの健康づくりの展開の意味を理解できる	予習 美容講座と健康の関わりについてレポートにまとめる。復習 美容講座のメニューを2つ挙げ目的と方法をまとめる
第6回	訪問美容実習 事前準備 その1 在宅への訪問美容	帳票類の作成 本人、本人の家族、医療&福祉関係者からの情報収集の必要性と施術方法が理解できる	予習 自分の帳票類を作成する。復習 対象者の帳票類を基に施術方法や関わり方についてレポートにまとめる
第7回	課題 カット&パーマ	本人が抱える問題に寄り添いながらニーズに対して的確な接遇と施術ができる	予習 帳票を基に施術方法の選択、美容道具、パーマ液、消毒液等準備する。復習 取り組みを振り返りレポートにまとめる
第8回	訪問美容実習 事前準備 その2 高齢者施設への訪問美容	帳票類の作成 本人、本人の家族、医療&福祉関係者からの情報収集の必要性と施術方法が理解できる	予習 高齢者の身体的特徴を理解する。復習 対象者の帳票類を基に施術方法や関わり方についてレポートにまとめる
第9回	課題 カット&セット	施設側担当職員との連携により本人が望むニーズに対して的確な接遇と施術ができる	予習 帳票を基に施術方法の選択、美容道具、消毒液等準備する。復習 取り組みを振り返りレポートにまとめる
第10回	訪問美容実習 訪問美容1・2の振り返り	実習を通して培われた観察力、洞察力で美容が対象者の心身に及ぼす影響、変化等について分析できる	予習 訪問美容実習の意義と目的について理解する。復習 訪問美容による社会的影響についてレポートにまとめる
第11回	訪問美容実習 事前準備 その3 重症心身障がい者施設への訪問美容	帳票類の作成 本人、本人の家族、医療&福祉関係者からの情報収集の必要性と施術方法が理解できる	予習 障がいの特徴を理解する。復習 対象者の帳票類を基に施術方法や関わり方についてレポートにまとめる
第12回	課題 カット&ブロー	施設側担当職員との連携により本人が望むニーズに対して的確な接遇と施術ができる	予習 帳票を基に施術方法の選択、美容道具、消毒液等準備する。復習 取り組みを振り返り、レポートにまとめる
第13回	訪問美容実習 事前準備 その4 障がい者センターへの訪問美容	帳票類の作成 本人、本人の家族、医療&福祉関係者からの情報収集の必要性と施術方法が理解できる	予習 障がいの特徴を理解する。復習 対象者の帳票類を基に施術方法や関わり方についてレポートにまとめる
第14回	課題 スキンケアアクティビティ	施設側担当職員との連携により、グループを対象に的確な接遇と施術方法でアクティビティができる	予習 アクティビティの意義と目的を理解する。復習 アクティビティのメニューを2つ挙げ目的と方法をまとめる
第15回	今後の美容福祉の対人的&社会的役割、あり方について総合的に考察し、美齢に繋がる考えを発表する	レポートをまとめ、発表し、自分の考察を他者へ主張することができる	予習 授業を通して美容福祉と美齢の繋がりを理解する。復習 美齢の取り組みについて1つ挙げレポートにまとめる